

第7期 第11回 練馬区循環型社会推進会議（発言要旨）

日時、場所	平成26年6月30日（月） 午前10時～10時50分 本庁舎5階 庁議室
出席者	出席委員名 12名 山谷委員、庄司委員、市村委員、岩橋委員、鈴木委員 武川委員、横谷委員、高橋委員、竹石委員、市川委員 武田委員、増嶋委員 区側出席 7名 区長、環境部長、環境課長、みどり推進課長 清掃リサイクル課長、練馬清掃事務所長 石神井清掃事務所長

【次第】

- 1 開会
- 2 答申
諮問事項「更なるごみ減量に向けた3Rの取り組みについて」
- 3 閉会

議 事 内 容

会長

それでは、定刻になりましたので、第11回練馬区循環型社会推進会議を開催いたします。

事務局から、本日の出席状況について、お願いいたします。

清掃リサイクル課長

事務局でございます。本日は、3名の委員から欠席の連絡が入っております。1名の委員につきましては遅参の届け出がございます。会議は定足数に達しておりますので、成立いたします。

会長

ありがとうございました。

では、ここからの進行は事務局をお願いいたします。

清掃リサイクル課長

改めまして、事務局で進行をさせていただきます。

始めに、事務局の幹部職員に人事異動がございました。名簿を机上配付させていただいておりますので、確認していただければと思います。よろしく申し上げます。

それでは、早々でございますが、本日の資料につきましては事前にご送付させていただいておりますので、議題、「更なるごみ減量に向けた3Rの取り組みについて」の答申に入りたいと思います。

会長から区長へ、答申の提出をお願いいたします。よろしくお願

たします。

会長

答申、「更なるごみ減量に向けた3Rの取り組みについて」。

練馬区リサイクル推進条例第21条第2項の規定に基づき、平成24年9月20日付、24練環清第375号により、貴職から「更なるごみ減量に向けた3Rの取り組みについて」諮問を受けました。

これまで慎重に審議を重ね、このたび、本書のとおり結論を得ましたので、ここに答申いたします。

練馬区長。

練馬区循環型社会推進会議会長。

清掃リサイクル課長

どうもありがとうございました。

それでは、ここで、区長から挨拶させていただきます。

区長

練馬区長でございます。

ただいま、会長から皆様の答申を受け取りました。皆様におかれては、平成24年9月から約2年にわたっていろいろな議論を積み重ねられ、また、いろいろな施設もご覧になって、議論されてきたと思います。この間、約11回の会議が開催されたと聞いております。皆様のご労苦に対して心から御礼を申し上げます。ありがとうございました。

私は4月20日に区長に就任いたしまして、今日までの間、新しい区政の準備および推進をしてきました。その中で、環境行政は極めて重要な課題であると十分認識しております。東京都に勤めていたときも、いろいろな形で環境行政には携わっております。

私は区長に就任するにあたり、「改革」を大きなスローガンといたしました。それについて、ただ改革のための改革ではなく、これまでの成果もきちんと踏まえながら、新たな取り組みを進めていこうと考えている次第であります。

区では、平成23年3月に第3次一般廃棄物処理基本計画を改定し、この中で、平成32年度における区民一人1日あたりのごみ量の目標値を平成21年度の551gから15%減量した470gとしています。

そこで、この目標の実現に向けて、更なるごみの発生抑制と減量化、資源として再使用・再利用を進めるための取り組みについて、平成24年9月、本推進会議に諮問いたしました。

今回の答申の経過につきましては、私は十分に尊重すべきだと考えておりますが、実務の観点から、当然ながら、検討も加え、精査もいたしまして、費用対効果の観点も加えまして、迅速に取り組むもの、また、中期的観点で取り組むものなどに分類いたしまして、具体的な取り組みの仕組みを確立していきたいと考えております。

この審議会ですら終わりではなく、環境行政につきまして引き続き充実させていき

いと考えておりますので、練馬区の発展のため、皆様には是非ご尽力をいただければと思っております。

2年間にわたってご参加いただき誠にありがとうございました。引き続き、どうかよろしく願い申し上げます。

清掃リサイクル課長

ありがとうございました。

申しわけございません、区長は、この後、公務が詰まっておりますのでここで退室させていただきます。

区長

どうもありがとうございました。

清掃リサイクル課長

それでは、ここで委員の皆様から順に一言ずつご発言をお願いいたしたいと思えます。2年間を振り返ってお感じになられたことなど、1分程度、簡単で結構でございますので、感じたままをご発言いただければと思えます。

まず始めに、副会長からお願いいたします。

庄司副会長

トップバッターということでちょっと緊張するのですが、今回のこの答申は約2年間かけてできました。

今のごみ行政、これは練馬区だけに限らず、全国、恐らくどこの市町村でもかなりの部分が共通するところだと思えますが、これからの行政、これからのごみ処理、ごみ行政あるいはごみ処理のあり方についての問題点、課題については一通り整理して答申という形になったと思っております。

ただ、ごみのことを私が最近危惧することは、割とごみ問題が社会問題というか、日常のニュースから少なくなってきた、割と穏やかに、問題がないように一見見えているのではないかということです。ごみ問題の関心が、薄れてきたとは言いませんが、ちょっと少なくなってきました。

これはある意味では別に悪いことではないんです。ごみがきれいに片づいている、毎日、とにかく日常の生活の中でごみの問題があまり生活に関わってきていないということのあらわれだと思えます。しかし、だからといってごみ問題が全て解決しているのかというと、そうではないのです。今回のこの審議の中でも、やっぱりまだまだ解決すべきことがあります。

ごみは、例えば、練馬区でも減量目標を出していますがけれども、年間を通して一人あたり、例えば、10グラム、20グラム、30、40グラム減るということはかなり減るということになります。しかし、結果から見て、1日20グラムが仮に減ったとしても、それでごみ処理行政の上でどれが具体的にどう反映するのか。例えば、車が1台減るか、人が何人減るのかとかという意味でも、例えば、ごみ処理費に関して見ても、すぐにそれははね返ってきません。それが積み重なって、一人当たり100

グラムとか200グラム減ってくると、これはかなりいろいろなところへ影響してきます。

だから、そういう意味では、ごみ処理というのは結構地道な毎日の努力が必要なので、それを行政としてどう受けとめてそれを反映させるというか、我々が日常生活の中でどう考えていくのかというのが、大事なところなのです。しかし、これはとても難しいことだと思います。

それから、もう一つ、最近では日常の生活と、事業系ごみという言葉がありますが、事業系から出るごみと日常の生活から出るごみは全く違うようでいて、実は一人一人の区民の生活、私たちの生活から見たら、形が変わっているだけで基本的にはやっぱり区民一人ひとりの関わりですよね。お店から出るごみも、区民の考え方一つで随分減るはずなんです。私は、その辺がこれからの大きな課題だと思いますし、その点については今回の答申の中でも問題点としては出ていると思います。あとこれをどう具体化していくのかは、恐らく次のこの会議で検討していく課題だと思います。

この2年間、皆さんの中に加わっているいろいろと議論して、大変有意義な時間だったと思います。ありがとうございました。

清掃リサイクル課長

ありがとうございました。

それでは、次の委員お願いいたします。お座りになったままで、どうぞお話しください。

委員

私は息子の小学校で実施された環境学習をPTAの広報部員として取材したのをきっかけに、練馬区のごみを少しでも減らすお手伝いできればと思い、委員に応募しました。

会議では、練馬区のごみ問題の現状について把握することができまして、大変勉強になったと思います。また、同じように、応募区民の皆さんや事業者さんですか、専門的な学識のある皆さんのご意見を聞くことができまして、とても貴重な体験ができたと思います。一区民の、一人の主婦としての意見を言わせていただいたのですけれども、そんな意見にも耳を傾けていただきまして、ありがとうございました。

今回の答申によって、今後、ますます練馬区のごみが減って行って、リサイクルが進むことを願っております。

ありがとうございました。

清掃リサイクル課長

ありがとうございました。

次に、委員、順番にマイクを回していただいて、お一言ずつと思います。

委員

一般家庭のごみ減量に向けてですけれども、やらなければいけないことというのが本当に増えてきまして、まずごみの分別は当然のこととして、マイバッグの持参とか水切り袋など、やっぱりこの辺は最低でもやっていかなければいけないなということに気がつきました。

それでもごみの減量がなかなか進まないのであれば、やはり家庭のごみ有料化ということに進んでいこうかと思えますけれども、これは区民、区民というか、家庭はすごく痛手になるので、これがごみ減量化をしていく上での意識づくりになればいいなということを考えております。

来期はどうなるかわからないのですけれども、やはり練馬区らしい取り組みでいろいろと解決していける問題があれば、していけたらいいなと思います。

分からないことが沢山あって、それをいろいろ教えていただいて、本当に有意義な会議だったと思います。ありがとうございました。

委員

自分で手を挙げながら、この2年間、余りお役に立てなかったなという反省をしております。ただ、2年間、いろいろな形で勉強させていただきました。本当にありがとうございました。

提言でほとんどは詰まっているのだろうと思いますけれども、どんな形で実行できるか、更なるというのが非常に難しいだろうと思います。どういう形で減量ができるかというのが一番のポイントになると思います。まずやることは、自分の身の回りのごみ、我々でしたらやっぱり家庭から出るごみをどうして減らそうかと、今のことを地道にやるしかないかなという感じがしています。

これから何ができるかというのはちょっとよくわかりませんが、この2年間勉強させていただいたことを少しでも自分の住んでいる場所の皆さんにPRしていければなと思っております。どうもありがとうございました。

委員

おはようございます。この2年間、本当にお世話になりました。いろいろな意味で勉強させていただきました。

皆さん方の今までの、これまでのお話を聞かせていただきまして、みんな共通しているなと実は思いました。というのは、私もいわゆる行政、識者、我々消費者と、また、業者の方。この4ステークホルダーの中で、それぞれの立場で建設的な会議が進められたと、しかもオープンの中で。非常に会長、副会長がそのバランス感覚を上手くまとめられたなと思っております。

そういった中で、今回、特に私が非常に意味があると思ったのは2点ございます。1点は、先ほど他の委員が申しあげましたように、やっぱり生ごみの水切り、これに対して非常に効果があるというお話をこの会議で教えていただきました。これに対しては非常にきちんとやるべきだなということです。

それと、もう一つは、やはり雑紙です。この雑紙回収袋、今回、こういったことは非常に成果が出るのではないかなと。要するに、毎日出るごみの中から、何をどう考えていかなければいけないのか、どうすればいいのかということが、もやもや

していたものがここへきてははっきり明確になったと思いました。

ですから、こういった分かりやすい行政というんですか、そういったものの実践を、また、区民一人一人が当事者意識を持って、ごみ問題はどうするのだということをやっぱり真剣に考えていかなければいけないと。これはいわゆるサステナビリティ、いわゆる継続的にやっていかなければいけないことであるということをお今日つくづく感じました。今後とも区民の一人としてまたいろいろとご協力、皆様方、ごみ行政の方にも非常にお世話になっているし、また、行政にも、そういったことも踏まえまして、我々区民というものはどう考えているのかということをお踏まえて、推進していただければと考えております。

以上でございます。

委員

おはようございます。

この会議に参加させていただいて、本当に私自身も勉強になりました。意識という部分では、本当に自分の日常生活レベルのことしか分からないということがベースにありました。この会議に参加した中で、工場見学などに行かせていただいて、自分が知らない部分、目に見えない部分で、いろいろな方が関わって、細かく砕いたものがチップになってまた利用されるということを目にしたときに、本当に感激いたしました。

そして、改めて自分の生活に戻って、自分が何かできるのかなということをお考えたときに、昔の日本人の精神的なものを引き継いだところの物の扱い方とか、物の魂があることを、私自身も物を大事にするとか、そういうことをさらに意識の中に埋め込んで、ごみに関しても、集積所がきれいであるべきというか、そういうところから少しずつ始めるとか。それから、自分の家の中のごみ、古布のことは何かすぐもったいない、ウエスにしたりして家事の使い用とか、そういうものにもしていただきますけれども、もっともっと広い意味の意識を、本当は「子供に教育を」という前に私たち大人が意識をもっともっと変えていかなければいけないということをお改めて感じたことであります。

この会議に参加させていただいて、大変参考になりました。本当にありがとうございました。

委員

まだまだ行政も、それから我々委員も、それから、広く72万区民も現場を知らないなど、もうその一点です。

具体例を申し上げます。今日の答申の21ページ、雑紙回収袋、これ一つをとっても、これが出来上がる過程で相談を受けていません。せっかく作るなら、現場を知り尽くして、もっともっといいものができたはずです。一例です。

学識経験者は、学問はその道についてはプロフェッショナルです。しかし、同時に練馬区の場合は大きく分けても五つの地域。各地域にはそれぞれの特性があり、それを踏まえて、ごみ問題の解決の手段、方法が違います。そういった中で一番大事なことが、現場を知り尽くすということです。

特に新区長は改革ということを旗印にしておられますので、改革のスタートはどこか。現場です。ここが志村区政と私は大きく違うと思います。ですから、これからは、行政は行政マンとして、区民は区民として、現場は現場で、一つひとつ起きている問題を真摯に受けとめ、解決していかないと、いつまでたっても改革は前に進まないという結果になるのではないかと感じてなりません。

委員

私はこの会議が始まる時に、10年前、今回でたしか10年になったと思うのですが、第3期から参加させていただきまして、すごく最近感じるがあります。当時、レジ袋はまだ全然減らそうということがなくて、マイバッグを持ちましょうという言葉も何かちらほら聞かれるぐらいの頃だったのです。それが今ではもうマイバッグは当たり前になって、レジ袋は買わなければいけない時代になったと。すごく変化、進化していると思います。

ただ、これからの更なるごみ減量ということを言いますと、どんどん細かい、細部に至って、いろいろな細かい制約というか、いろいろと皆さんご協力しなくてはいけないことが出てくるかもしれません。そういったことがやはりごみ減量にこれからつながっていくと思いますので、努力していく方が私はいいと思っています。

私は事業者として、東京商工会議所から来ているのですが、事業者といってもほんの3名ぐらいの小さな、どちらかという家庭に近い事業者という立場で参加させていただいております。事業者としての意見はなかなか言えない部分もあったのですが、この2年間、どうもありがとうございました。

委員

今回、2年間、大変お世話になりました。

これからやはり古着ですとか古布ですとか、雑紙の回収、回収事業者の立場として、更なるリサイクルの推進ということで、一番大きな回収品目に挙がってくるのではないかと考えております。

4ページの古着・古布の区立施設の回収量が平成24年度が507トンという形でお示しされておりますが、近隣の川口市は人口が約57万人、古布の回収が非常に盛んですが、1カ月当たり大体150トンぐらい、量の多い衣替えの時期は200トンぐらい古布が回収されているということを聞いております。

もし、この集積所回収で、この方法で、今のルールワンの車両で資源の日の回収に品目を加えることになると、非常に後々厳しい状況になっていくのではないかとこの危惧は私の中で持っております。

また、雑紙においても、やはり事業者の立場としては非常に禁忌品などの混入が心配されますので、ぜひ進めていく中においては周知徹底、区民の皆さんのご協力をお願いするよう、お願いしたいと思います。

私からは以上です。ありがとうございました。

委員

2年間、どうもお疲れさまでした。

私は資源物、廃棄物は表裏一体、^{あざな} ^{なわ} ^{こと} 糾える縄の如しとっておりますので、この3R、一番最初に出るRの中に「発生抑制」という言葉があるんですけども、リデュースですね、発生を抑制されますと、我々の扱う代物が減ると。減るとということは我々の利益が減ることにイコールでつなぐことになってきますので、発生を抑制しなくても、それがきちんと回っていけば、私は別に問題はないと思いますけれども、これから高齢化社会になりますので、今の回収方法が本当にいいのか、個別回収にならざるを得ないような状況が出てくるのではないかと考えていますので、今後ともひとつよろしく願いいたします。

委員

おはようございます。練馬区教育委員会教育指導課指導主事でございます。前任より委員を引き継ぐまで、私は14年間、小学校の教員をしていました。環境教育は、教育活動全体を通して行われるものですが、ごみの問題は重点として小学校4年生で取り扱っています。

私は練馬区に着任したときに、はじめて「ふれあい環境学習」という取り組みを知りました。また、実際4年生を担当したときに、練馬区がこのように環境教育に力を入れていることについて大変素晴らしいと感じました。そして、行政の立場からこの会議に参加し、ごみの問題について、いろいろな方々が意見を交えながら、練馬区をよりよくしていこうという取り組みを目の当たりにして、改めてのその素晴らしさを感じています。

私は1年間、こうした取り組みに感謝の言葉ばかり述べて参りました。小学校では、集会などで4年生の子供たちが学んだことを下級生にも、上級生にも伝えるといった取り組みをする学校が多いです。その中で、4年生のときまでに、「3Rって何だろう」とか、「ごみ問題って何だろう」と興味を抱いて育ってきています。先ほど他の委員から、地域が違えば、課題も違うというお話がありましたが、ふれあい環境学習の中で改めて「練馬区の実態はこうなんだよ。こんな問題があるんだよ。」ということを知りますと、それは教科書に載っていないことでもあったりするので、子供達にとっても大変有意義なことだと思っております。今後も引き続き、教育委員会として、清掃リサイクル課とも連携をとりながら進めていけたらと思います。

よろしく願いいたします。

清掃リサイクル課長

皆様、ありがとうございました。

それでは、最後に循環型社会推進会議を代表いたしまして、会長からご挨拶をいただきたいと思います。よろしく願いいたします。

会長

この2年間、皆様の熱心なご議論でこういう形で、現状の練馬区として比較的取り組みが可能で、実現性が高くかつ有効な施策が、ごみ品種につきましても、生ご

みから始まって、プラ、雑紙、古布、金属等、いずれも更なる減量ができる分野を網羅しております。それから、集団回収の拡充とか、事業系ごみの適正排出対策とか、それから、情報掲示板という、情報流通の円滑化と、網羅はできているのではないかと思います。

ですから、すぐ取り組めるもの、それから、費用対効果も考えながらとの区長のお話もありましたけれども、中期的に取り組むものと、いい内容の答申ができたのではないかと思います。

練馬区を出て23区で見ますと、業務について23区の前は東京都清掃局が担当されていました。1990年代の初めくらいまで、全量を焼却できないということで、生ごみなどもそのまま埋め立てていたので、カモメやカラスがすごかったという時代がありました。

副会長

平成10年度で全量焼却達成です。

山谷会長

そういうような時代を経てということで、すごい危機意識が当時あったと思うんですけれども、完全に焼却もできていますし、埋立て処分場も、サーマルリサイクルということを経て、プラスチックが可燃ごみに区分け変更されたということで、さらに最終処分場の延命化が進んでという、今はだんだんこの危機意識が薄れているところがあるのではないかなという気がします。

一見いいような状況にあるということなんですけれども、しかし、練馬区のこの答申で見ましても、ごみ処理経費が70億円という、かなり大きなものになっています。それから、延命化されたとはいっても、最終処分場はもう今の新海面処分場しかないという状況でもありますし、やはりこの環境負荷軽減ということと考え合わせても、ごみ減量に今こそもう一度、意識をみんなで高めていって、一生懸命取り組むということが大事じゃないのかなという気がいたしております。

練馬区は区集ごみの原単位で見たら、一人1日あたりで見て、一番小さい区の一つです。トップランナーですから、練馬区がリーダーシップを発揮して、23区で更なるごみ減量を進めることについて、音頭取りも是非していただきたいと思います。

この2年間、委員の皆さんには大変お世話になりました。改めてお礼を申し上げます。ありがとうございました。

清掃リサイクル課長

ありがとうございました。

2年間、11回ということで、かなりの回数を重ねてまいりましたけれども、皆様から忌憚のないご意見を頂戴しました。行政としても、地域、区民の方々の視点について、改めて感じさせられ、またいろいろと考えさせられた答申をいただきました。ありがとうございます。

これで会も終わりに近づこうとしておりますが、先ほど、他の委員から指摘がありました、雑紙回収袋でございます。こちらは、答申をするにあたって、皆様方にご議論いただいたときに、雑紙を入れる紙袋がない、出しにくいといったいろいろなご意見がございましたので、試案ということで事務局の方で作成させていただき

ました。経費などさまざまな関係もあるため、今後どういうふうにして広めていくかについてはこれからだとは思いますが、まずはこれを学校の環境学習のときに、お子様方に配ってみたらどうかというところでございます。

こういったもの一つ作るにも、費用がかかりますし、これが使い勝手が悪く活用されない場合は、区民の方にご意見もいただきながらという形になろうかと思いますが、事務局は事務局なりに何か一つ、最後に皆様方の熱い思いを合わせて形にしたいなと思い、試作品ということで作成し、机上に配付させていただきました。

今後また、短期的に取り組めるところから積極的に取り組んでまいりたいと思っておりますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

それでは、これをもちまして、第7期第11回練馬区循環型社会推進会議を閉会したいと思います。

今回で第7期は終了となりますが、第8期の区民委員の皆様につきましては、6月21日号の区報で改めて公募させていただいております。引き続きのご参加については是非区民委員の皆様方をお願いしたいと思いますので、ご応募のほど、よろしくお願いいたします。

会長、副会長並びに委員の皆様、お忙しい中、第7期循環型社会推進会議にご参加いただきまして、誠にありがとうございました。